

○会長（大村愛知県知事）コメント

世界中を、そして日本全国を興奮の渦に巻き込んだラグビーワールドカップ。豊田スタジアムの3試合は全てほぼ満員で、合計約11万人を動員し、スカイホール豊田でのファンゾーンにも、10日間で6万人を超える方が詰めかけました。国内外から愛知・豊田に多くの観戦客をお迎えし、興奮と歓喜、感動を共有することができました。

この成功の要因は、日本代表の活躍に加え、開催支援委員会として、2015年の設立から大会開催に向けてファンゾーンの開催や、都市装飾、交通輸送・警備、ボランティアの運営、広報などに、経済界などと連携・協力をし、万全の準備を重ねてきた結果と考えております。

また、ボランティアの皆様の活躍や、公認チームキャンプ地での市民と選手の交流も、大会の盛り上げを支えてくれました。

こうした地域を挙げた取組が、観光をはじめ様々な経済効果を生み、交流の拡大、知名度の向上などにつながりました。

大会終了後もラグビー人気は続いており、ラグビーの魅力が皆様の心にしっかりと根付き始めた実感しております。

これまでご尽力賜りました委員・監事の皆様や各種団体の皆様方には、この場をお借りして改めて深く感謝を申し上げます。

○会長代行（太田豊田市長）コメント

「TRY FOR ALL」というキャッチフレーズのもと、地域一体となった機運醸成を図り、豊田スタジアムを舞台にラグビーワールドカップ2019™を無事に開催できたことを、心より御礼申し上げます。

また、豊田スタジアムの試合はもとより、豊田市駅前を中心に、地域の皆さんと一緒に来訪者のおもてなしを行い、かつてないほどに盛り上がり、この地域の魅力を国内外へ十分に発信できたと思っています。

そして、今大会は、多くのレガシーをこの地域にもたらしてくれたと感じております。例えば、ボランティアとして大会を支えていただいた方々とのネットワーク、世界的な大規模イベントに備えた危機管理体制の構築、道路整備等による安全で円滑な移動環境の確保などがあります。これらの財産を更なるこの地域の発展に生かしてまいります。

最後に、スタジアムでの観戦はもとより、ファンゾーン、おもてなしイベントにお越しいただいた皆様、大会を支えていただいたすべての皆様に、この場をお借りして感謝を申し上げます。